



企画展

山内清男の考古学

5月29日②
まで開催中

「日本先史考古学の父」と呼ばれる山内清男博士は、先史考古学の方法論を確立するとともに、縄文時代研究を科学的に体系化し、日本の考古学界に大きな足跡を残しました。

企画展では、山内清男博士が考古学と共に歩んだ足跡を、資料に沿って辿ります。

本庄早稲田の杜ミュージアム

早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター1階（西富田1011）

開館時間 午前9時～午後4時30分

入館料 無料

休館日 月曜日（休日の場合は翌日）

★本庄早稲田の杜ミュージアム

☎ 71-6878・FAX 71-6879

縄文時代後・晩期には、遺跡の数は減少しますが、湧水や池沼の周辺、低地に遺跡がみられるようになり、新たな環境が切り開かれたようであることがわかります。また、土偶や土製の装身具、石棒や石剣などの祭祀具などに、精巧な作りの製品がみられるようになります。

会期 1月4日(火)～3月27日(日)
時間 午前9時～午後4時30分
会場 早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター2階情報資料室
入館料 無料

ワークショップ

縄文人に挑戦

ミニ縄文土器をつくろう

ミュージアムにある本物の縄文土器を参考に、粘土をこねて、伸ばして、積んで、縄目の文様をつけて、高さ15cmのミニ縄文土器をつくりまします。

日時 1月21日(金)～23日(日) 午前10時～午後2時～

※体験時間の目安は90分。

会場 本庄早稲田の杜ミュージアム

講師 本庄早稲田の杜ミュージアム学芸員ほか

対象 どなたでも

定員 各5名（先着順）

費用 200円（材料費）

用意 汚れてもよい服装

申込 1月15日(土)午前9時から電話、FAXまたは直接本庄早稲田の杜ミュージアムへ

本庄早稲田の杜地域連携展覧会
旧石器・縄文時代の児玉・深谷地域
児玉・深谷地域では、丘陵部を中心に、旧石器時代から人々の暮らしが始まりました。旧石器時代から縄文時代草創期・早期にかけて、人々の暮らしの跡は、遺跡に残されたわずかな石器や土器におおむね限られますが、児玉・深谷地域のほぼ全域にわたって、さまざまな時期、段階の遺物がみられます。

縄文時代前期以降になると、主に丘陵部に竪穴住居が営まれるようになり、ムラと呼んでよい竪穴住居のまとまりが形造られるようになりまします。この豊富な森林資源や河川をめぐる多様な資源を背景とする定住化と集住化の傾向は、縄文時代中期に、大規模なムラの出現として最盛期を迎えました。

講演会

テーマ	日程	講師
① 大久保山遺跡出土の縄文土器をめぐる諸問題	1月29日(土)	細田 勝氏 (元早稲田大学考古資料館学芸員)
② 神川町の縄文時代	2月5日(土)	北山 直人氏 (神川町教育委員会生涯学習課)
③ 深谷市の縄文時代	2月12日(土)	平野 哲也氏 (深谷市教育委員会文化振興課)

講演会共通

時間 午後2時～3時30分

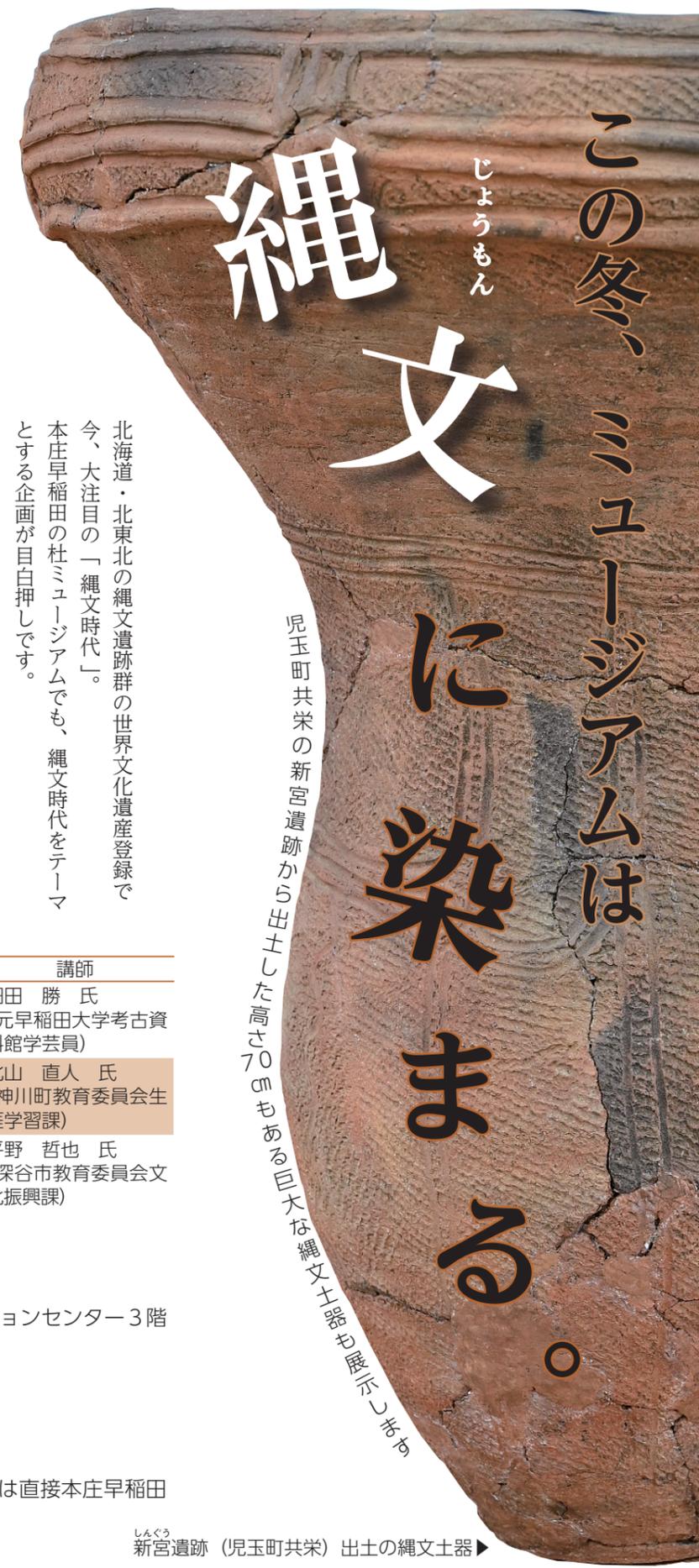
会場 早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター3階レクチャールーム1

対象 どなたでも

定員 各50名（先着順）

費用 無料

申込 1月14日(金)午前9時から電話、FAXまたは直接本庄早稲田の杜ミュージアムへ



新宮遺跡（児玉町共栄）出土の縄文土器